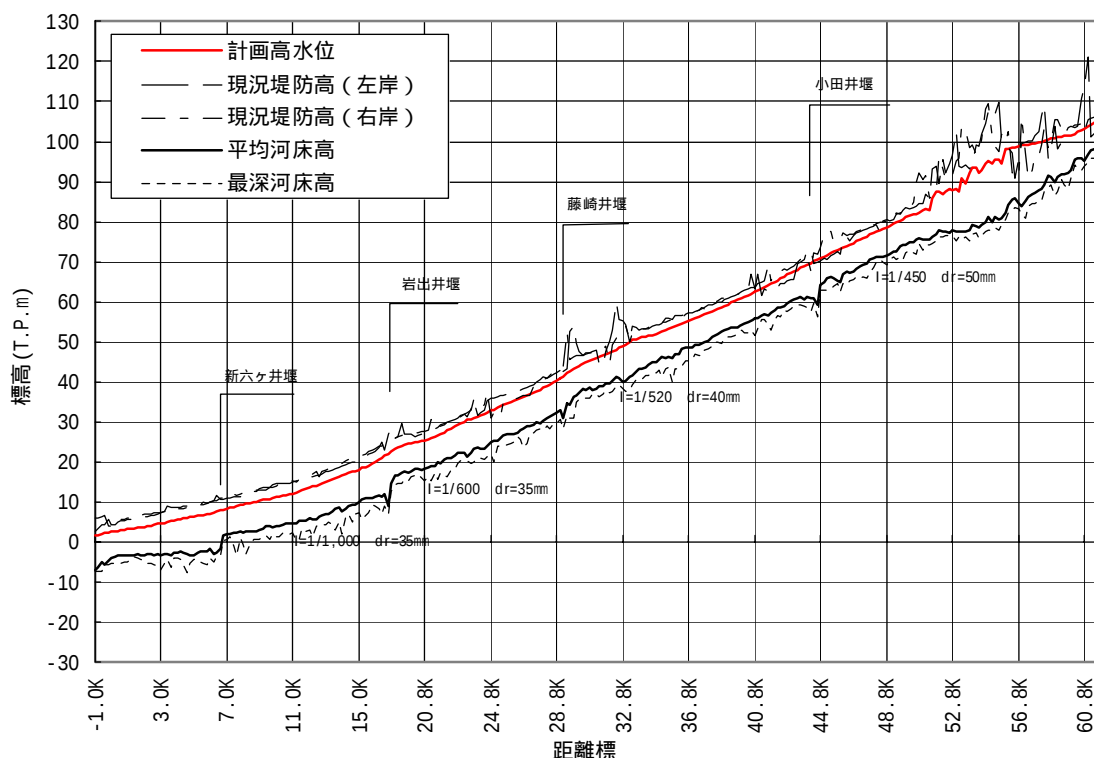


8 河道特性

紀の川は、奈良県の大台ヶ原山を水源とし、大迫ダム、大滝ダムを経たのち高見川と合流する。このあたりから中央構造線に沿って西流し始め、大和丹生川と合流する。奈良県内では吉野川と呼ばれるが、その後、和歌山県内に入ると紀の川へと名称を変え、小田井堰を経て紀伊丹生川と合流し、藤崎井堰を経たのち貴志川と合流し、岩出井堰に至る。岩出井堰から下流部では、紀の川大堰の湛水区間が始まり、紀の川大堰から下流部は感潮区間となり、紀伊水道に注ぐ。

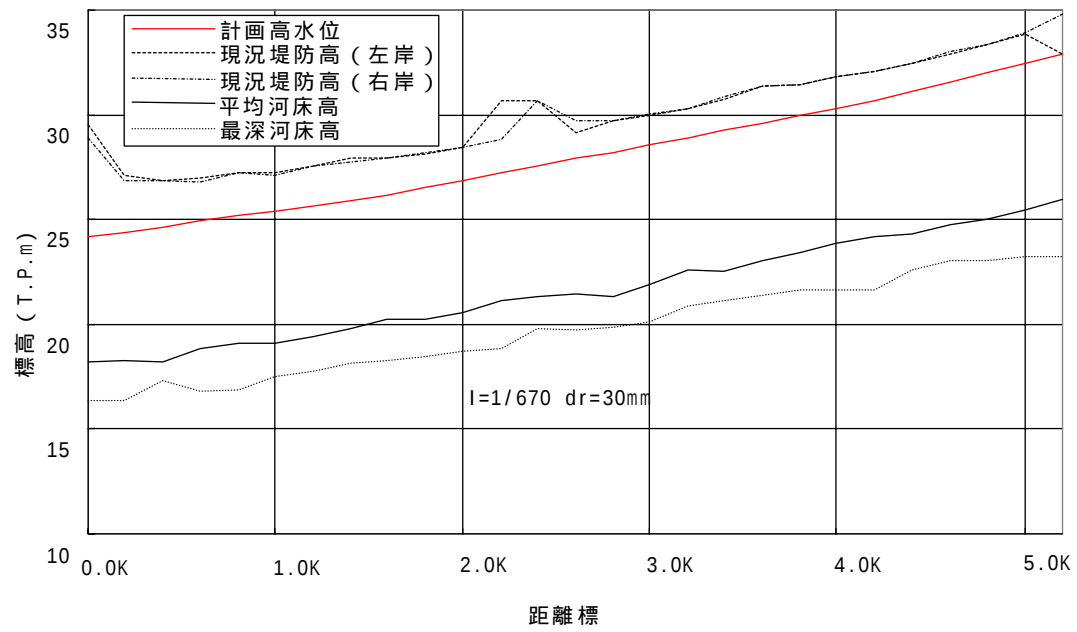
紀の川流域の河川縦断面図を見ると、河床勾配は全体で $1/3,000 \sim 1/300$ の範囲にあり、大滝ダム管理区間では河床勾配約 $1/300$ 、上流部では河床勾配約 $1/600$ 、中下流部では河床勾配約 $1/1,000$ 、汽水域では河床勾配約 $1/3,000$ となっている。

■ 紀の川 河道区分縦断面図



出典：和歌山河川国道事務所

■ 貴志川 河道区分縦断面図



出典：和歌山河川国道事務所

(1) 上流部

大滝ダム管理区間では、河床勾配約 1/300、川幅約 200m、河床材料は岩で構成され、渓流区間が連続している。また、大滝ダムの上流にある大迫ダムの放流、発電所の取水及び放水、小支川の流入などがあり、流況変動が大きい区間となっている。



100k より上流の大滝ダム貯水池

出典：紀の川ダム統合管理事務所

直轄管理区間に入って、五條市栄山寺橋から橋本市域までは、五條市、橋本市周辺の区間を除けば、堤防が不要となっている、いわゆる掘り込み河道が大半を占めている。川幅は約 100m と比較的狭く、直線的な線形で中央構造線に沿って西流している。河床勾配は約 1/450 であり、代表粒径は 50mm 程度、河床材料としては大石・岩盤が多い。



53.0k ~ 55.0k 付近

出典：和歌山河川国道事務所

(2) 中流部（橋本市域～岩出井堰）

橋本市域から下流では、中央構造線に沿って西流し、瀬や淵を繰り返し、途中に藤崎・小田井堰で湛水域（淵）が形成されている。堤内地では、段丘扇状地のすそ野にみられる水田や果樹園が多い。中流部は堤防整備が進み、無堤部は安田嶋地区と慈尊院地区を残すのみとなっている。川幅は小田・藤崎の狭窄部があるものの約 200m～400m、河床勾配は約 1/450～1/600 であり、代表粒径は 40～35mm 程度、河床材料としては砂礫や石が多い。



41.0k～46.0k 付近



24.0k～30.0k 付近

出展:和歌山河川国道事務所

(3) 下流部（岩出井堰～紀の川大堰）

岩出井堰を経て、紀の川大堰にいたる下流部では、紀の川大堰（6.2k）から川辺橋付近（11.0k）まで湛水域となっている。また、阪和自動車道、JR 阪和線紀の川橋梁、国道 24 号紀州大橋等が多数存在している。堤内地は水田、住宅地が多くみられ、築堤はほぼ完了している。川幅は約 400～700m あり 9.0k 付近には中洲に輪中堤で囲まれた小豆島が存在する。河床勾配は約 1/1,000、代表粒径は 35mm 程度、河床材料は砂礫、砂が多い。



出典：和歌山河川国道事務所

6.8k～10.0k 付近

(4) 汽水域（紀の川大堰～河口）

紀の川大堰より下流は、淡水と海水が混じり合う汽水域となっており、環境省の重要湿地に指定されている泥・礫干潟が存在し、人口の集中する和歌山市域の北縁をゆるやかに西流して河口へと達する。また、紀の国大橋、南海本線紀の川橋梁、国道 26 号紀の川大橋、県道紀の川河口大橋等が多数存在している。堤内地は住宅地、工業地であり、築堤は完了している。左右岸ともに高水敷は緑地公園、グラウンド、災害時の緊急河川敷道路等多方面に活用されている。川幅は約 500m 以上あり、河床勾配は約 1/3,000、代表粒径は 0.3mm 程度、河床材料は砂、シルトが多い。



出典：和歌山河川国道事務所

3.0k～6.2k 付近

(5) 貴志川【直轄管理区間】

貴志川は、和歌山県伊都郡高野町に源を発し美里町、野上町を西流し、海南市の東端で北へ流れを変え貴志川町に入ったのち、紀の川本川に合流している。直轄管理区間は合流部より 5.2k の諸井井堰までの区間。かつて大規模な改修工事を行っており、川幅は約 200m とほぼ均一である。河床勾配は約 1/670、代表粒径は 30mm 程度、河床材料は砂礫、砂が多い。



0.8k～4.0k 付近

出典：和歌山河川国道事務所